

物語で紐解く遊びの意味

③

A児



④



B児



①

経験ついでにふたつ

写真の一部を割愛して掲載しています



生憎の雨。森のケーキ屋さん、ダム工事、昨日の遊びがどうなるのか楽しみだったのに。園庭に残しておいたケーキ屋さんのショーケースが寂しげに濡れている様子を遠目に眺めながら「さて、この雨じゃさすがに室内か」と、保育者は気持ちを切り替え、室内環境の準備を急いだ。「スーパーカー作る!」「ほくは、スーパーカー」保育室に入るなり真つ先に叫んだのは、A児とB児。「そう言えば、前から作りたいって言うってたな」おはようと声をかけた

も手際のいいガムテープさばきに、思わず笑ってしまふ保育者。A児は、黒、白、次々にやり直し、その度に箱にまたがり、じーっと数秒間。まもなく立ち上がる、重さで凹んだ部分を押ししながら「じょうぶじゃない」と嘆いた(②③)。「いろいろ試してみるんだけど」A児から声が漏れる。今度は茶系の段ボールを一段と手際よく組み立てた。「え?こんなやつなの?」目の前に現れた箱は(④)、意外にもかなり平べったい目を丸めたA児は、再びまたがり、またじーっと確かめた。ちようどそこへB児が戻ってきた。新たな材料を保育者にお願したようだ。それを手に持っている。A児「じょうぶな箱は?」B児「え?箱は持つてきてないよ。はいこれ、A君の分もあるよ」

確かに保育者は「これも好きに使っていいよ、古いから」と渡していたらしい。加えて実は、B児の祖父はバイク乗せてもらった経験もある。それを保育者は、知っていた。マットに穴をあけ、そこにペーパー芯と新聞紙で作ったハンドルをさし込んだB児は、気持ちよさそうに試乗した(⑧)。A児のこだわり、B児のイメージ、二人の知識、思いや経験が、交錯し、重なったり更新したりしながら進む遊びに、保育者の胸は期待に膨らんだ。(次号に続く)

ちよっこメモ



やりたいことを楽しむ過程で幼児は育ちます。対象と関わり、関わりが深まり、その過程で生まれていく「その子にとつての意味」。記録や対話を通して、例えばこうやって物語として見つめ直してみると、その時は見えていなかった意味に気がつくことができます。その子理解を深める先に、援助の可能性を探ることもできるでしょう。子供たちはここで何を経験していますか?

右の2次元コードを読み取るかクリックで回答をお願いします



ココです。

発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課
☎023-630-3416 ✉kuraokat@pref.yamagata.jp
※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用

